



教室を超えた学習： 異文化間自然体験のメカニズムと影響を探索

～キャンプ参加者の態度や行動の変化が及ぼす学習環境への影響～



研究シーズ概要

本プロジェクトでは、自然環境における社会的活動への参加が教育にもたらす影響を探ります。これは、異文化コミュニケーションやコンピテンシー、チームワーク、問題解決などの「ソフトスキル」の発達に限定するものではありません。研究は、実際に行われる「キャンプ」イベントを通じて、こうした野外活動で内在する様々なメカニズム（プロセスやシステム）を分析し、参加者の態度や行動の変化、特にその変化が教室環境にどのように持ち込まれるのかについて、因果関係の解明を試みています。2024年に実施された2回の試行的な活動から得られた知見によれば、参加者には英語および日本語でのコミュニケーション意欲の向上 (Kirchmeyer & Ott, 2025) や、参加者間の人間関係の質や関係性の量の改善が見られました。また研究は、参加者のエンゲージメント（関与）、モチベーション、そしてウェルビーイング（心身の健康）を支援する効果的かつ拡張可能なプログラムとしての開発にも貢献します。さらに本研究は、日本およびアジアにおける言語・文化に焦点を当てた小規模ながらも成長しつつある研究領域を発展させるもので、このような活動への参加は、不安の軽減、コミュニケーション能力の向上、第二言語習得、異文化理解の促進において肯定的な影響を与えることが示されています。



利点・特長・成果

本プロジェクトは、野外での学習環境が言語の発達、社会的なつながり形成、および異文化間理解の促進に寄与することを示しています。調査結果からは、参加者の英語および日本語でのコミュニケーション意欲が有意に向上していること（図1）、また、社会的ネットワークの形成および発展が確認されました（図2）。なお、本研究のために開発された調査手法は再利用および応用が可能であり、今後の研究に有用なツールとなります。このプログラムは、ウェルビーイングと体験学習の理念に基づいた革新的な学生中心の語学教育のアプローチとして機能します。さらに、この活動実施は、地域の大学との連携のきっかけにもなっており、今後はさらに中学・高校や地域企業など、より広範な展開を目指しています。

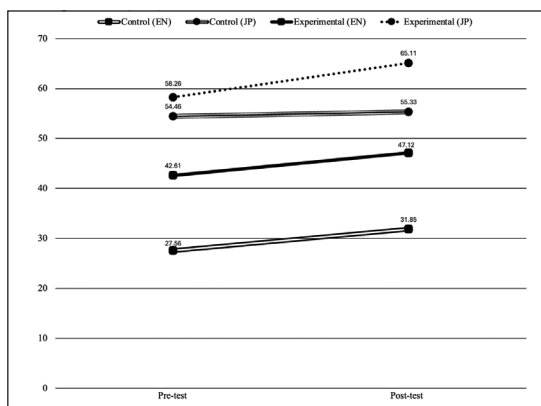


図1：コミュニケーション意欲(WTC)の向上

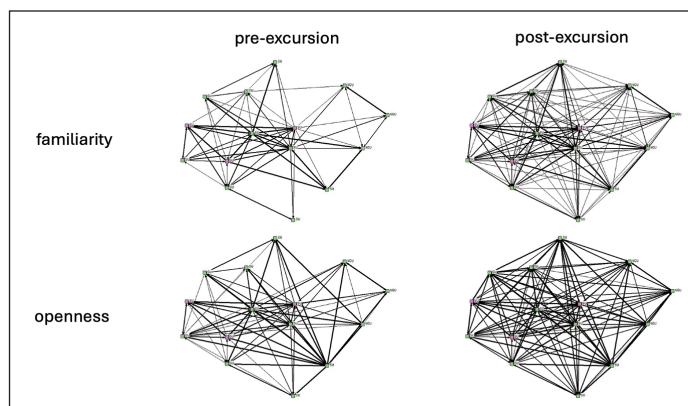


図2：ソーシャルネットワークの発展



キーワード

教室を超えた学習、野外教育、異文化コミュニケーション、チームビルディング、インフォーマルな語学学習、学生の関与、ウェルビーイング、アドベンチャー教育、ソーシャルネットワーク分析

本技術に関し、対応可能な連携形態（サービス）

知財活用	可	技術相談	可	共同研究	可
施設機器の利用	可	研究者の派遣	可	技術シーズ 水平展開	可

開発段階

5	第5段階	製品・サービス化（試売／量販）段階	2	第2段階	試作（ラボ実験レベル）段階
4	第4段階	ユーザー試用段階	1	第1段階	基礎研究・構想・設計段階
3	第3段階	試作（実証レベル）段階			

SDGsの目標

